

キンメダイの資源回復に向けた 種苗生産技術の開発

(予算区分 受託 研究期間 2022 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所伊豆分場 石田孝行 深層水科 倉石祐

【研究の背景とねらい】

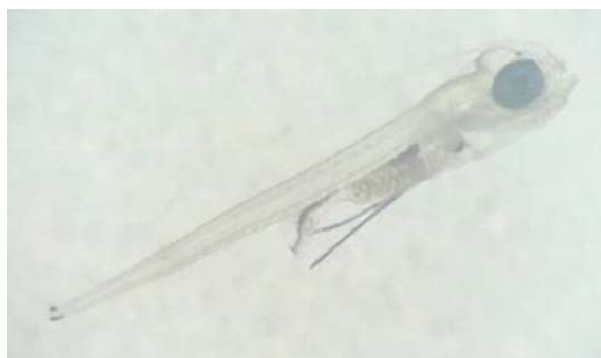
- ・本県のキンメダイ水揚量は最盛期の 7 千トンから近年は 2 千トン未満に減少し、また一都三県の親魚量は最大持続生産量 (MSY) を実現する量を下回っていると評価され、漁業者による自主的な資源管理に加えて資源回復の漁獲圧削減などが提案されています。
- ・漁業者からは栽培漁業の実現が求められており、県は第 8 次栽培漁業基本計画においてキンメダイを研究対象魚種と位置づけました。
- ・そこでキンメダイ栽培漁業に向けた研究の第一段階として種苗生産技術を開発します。

【これまでに得られた成果】

- ・成熟期の親魚を捕獲した後、麻酔をかけて生かして持ち帰ることにより、様々な飼育条件を検討ができるようになりました。
- ・搾出した卵や卵巣卵をリンガー液で洗浄して授精させることで、より多くの受精卵を得ることができるようになりました。
- ・受精後の飼育水温を検討したところ、受精は 10℃、その後の卵管理は 15～20℃、ふ化は 20℃、仔魚の飼育は 20～25℃が適していることがわかりました。
- ・精子の冷蔵保存や凍結保存が可能となり、雌親魚しか確保できない場合でも人工授精が可能となりました。
- ・ワムシ以外の初期餌料としてマガキ幼生を給餌したところ、ふ化 4 日後の仔魚の消化管内にマガキ幼生を確認しました。ふ化後の初期餌料として有望と思われます。



麻酔をかけたキンメダイ捕獲魚



仔魚の消化管内にマガキ幼生を確認

【期待される効果】

- ・栽培漁業の推進によって、積極的な資源回復の取り組みが可能になります。また飼育試験で得られた知見はキンメダイの初期生態の解明への貢献が期待されます。

【今後の計画】

- ・捕獲した親魚及び養成親魚の生残状況を改善し、捕獲後の経過日数が長い親魚を人工授精に用いることで、卵質の向上と安定的な受精卵の確保を図ります。
- ・ふ化後の仔魚飼育においては、初期餌料及び給餌方法を検討するとともに、飼育環境の最適化を図り、生残率の向上と長期間の飼育を目指します。

(作成 2023 年 4 月)